

南信州新聞

2015. 9. 11

きょうの紙面

- 2 昼神温泉に中津川駅から冬季バス運行
- 3 19日に焼来肉ロックフェス
- 6 7 今宮郊戸八幡宮秋季祭典
- 8 9 鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭
- 10 知的障害者のバスケ日本代表に
- 11 法政大留学生が飯伊研修の成果発表

日本の多様性考える

法政大 飯伊研修の成果を発表

法政大学国際文化部（東京都）で学ぶ中国と韓国の留学生3人が9日、飯田市公民館で飯田下伊那地域における研修成果を発表した。満州移民や残留孤児、多民族共生などそれぞれのテーマごとに報告し、参加した受け入れ先関係者や一般ら約20人は注意深く耳を傾けた。

ことし4年目を迎え、飯田下伊那を訪れ、天川町にも訪れ、地域の同大学留学生の研修 龍村の平岡タム、飯田 歴史や文化、民俗、自然は、飯田下伊那地域を 市の川本喜八郎人形美 などについて学んだ。例に日本の多様性を考 術館やデイサービス施 この日発表したものはえることが狙い。3日 設、阿智村の満蒙開拓 同文化部2年生の3 から7泊8日の日程で 平和記念館のほか、松 人。このうち「満州移

民の歴史と移民による 残留孤児および二世、三世の問題一のテーマで発表した中国出身の袁琳琳さん(25)は、ソ連軍の満州侵攻で始まった逃避行と收容所生活、中国残留孤児、残留婦人、帰国時の問題など学んできた成果を披露。残留孤児二世、三世にインタビュ

ーした結果「中国帰国者であることを隠し、最初はなかなか日本社会になじめなかったことが分かった」と語った。

まとめでは「帰国時の年齢によって状況は大きく異なると思う。ゼロから日本語を習い始めた人は、一世と同様に言葉や文化の壁に直面し、一方で小



法政大学留学生による飯伊研修成果発表会

う」と結論付けた。袁さんは「残留孤児はほとんどが70歳以上で、言葉の壁で高齢者施設になじめない。通訳代わりとなる二世や三世が学校を休みがちになるという現実もある」とし、「周囲の帰国者と互いに助け合う協力が必須。その点で飯田市立病院に中国語の通訳がいてすごいと思った」と話した。飯田下伊那についても触れ「自然豊かで、人と人が強く結ばれる絆を感じた。松川町のホオズキはとてもおいしく、いい思い出になった」と感想を述べた。